

表3 家庭教育講座実施内容

開催日時	演題	講師	参加者
61年6月12日(土) 13:00~15:30	62年度大学入試の展望と対策	代々木ゼミ 小坂敏雄氏	2・3年生 200名、保護者、同窓会員 110名
7月19日(土) 13:00~14:30	高校生と家庭教育のあり方	県教育庁社会教育課 主幹 金田浩一氏	保護者、同窓会員 315名
10月2日(木) 14:30~15:00	現代の若者をどう理解するか	福島大学教育学部 河野義章氏	保護者、同窓会員 201名
11月11日(火) 14:10~15:10	進路実現のための望ましい親と子のあり方	進研情報室 後藤守氏	1・2年生 703名、保護者、同窓会員 125名
62年7月20日(金) 11:20~12:20	親と子の「受験摩擦」解消セミナー	旺文社 代田恭之氏	1・2年生 706名、保護者、同窓会員 400名
10月2日(金) 13:00~14:00	これからの大学入試を考える	進研高校部主任 水畑秀夫氏	保護者、同窓会員、一般人 350名



保護者の関心と呼んだ家庭教育講座

度から新たに家庭教育講座を開設して保護者の啓発に努めている。

六 進路実現のための教育課程の改善

(一) 改善の理由

1 近年就職及び専門学校等への希望者が増加し、今までの教育課程ではこうした進路の多様化に対応できなくなかった。

2 生徒の学力差が年々拡大する傾向を示し、学力も全体として低下しているため、個々の生徒の進路希望の実現が困難な場合も生じている。

(二) 教育課程改善の方向

① 文理コース案：二年から文理別クラス編成をするもの。

表4 自分の進路について考えたり、進路を選択・決定したりする上で重要な役割を果たした要因 (10項目から複数選択実人数に対する割合を示す)

項目	1年	2年	3年
LHRの時間における進路指導	27%	25%	9%
進路指導部が出す「進路情報」や「進路資料」など	26	31	26
各教科の授業	15	14	10
進路別ガイダンス	3	8	33
ホームルーム担任による面談	6	8	26
進路担当の先生との進路相談	7	7	16
進路に関する講演会	6	12	8
修学旅行などで工場見学	1	1	1
保護者との話し合い	22	25	29
様々な進路情報誌	33	40	50

みの深まりが見られる。三年生では、進路決定の時期が早まり、また、進路実現のための取り組みもはっきりしてきた。

表4によると、進路指導部が出す「進路情報」や「進路資料」及び「保護者との話し合い」などは各学年とも重要な役割を果たしていることがわかる。また、一・二年生では「ロングホームルームの時間における進路指導」、三年生では「進路別ガイダンス」と「学級担任による面談」が重要な役割を果たしていることがわかる。

(二) 教員の進路指導に対する意識と評価

1 教員の意識の変容  
進路指導の基本的性格に対する理解が深まってきている。特に「職業的発達を促進する活動」については著しく理解が進んだ。

2 進路指導に対する教員の評価

図4のとおり、ロングホームルームに対する評価は高くなった。

また、「生徒が三年になってから保護者に働きかけるのではなく、一年から計画的に働きかけている」とする者も増えた。しかし、「保護者への働きかけの方法については現行のもので良いか」に対し、「いいえ」が二十九パーセントもあるので、さらに改善が必要である。

七 進路意識の変容と評価

三年間にわたって実施した進路意識調査の結果から読みとられる進路意識の変容を見た。

(一) 生徒の意識

一年生について言えば、六十パーセント以上の生徒に、自己理解や職業理解に関して深まりが見られる。二年生では、進路への関心や具体的な取り組み